

令和7年度 中学生の「税についての作文」

柏税務署管内納税貯蓄組合連合会 ・ 柏税務署

我孫子市教育長賞

おいしい給食と税のつながり

我孫子市立我孫子中学校 第3学年 笹原 華乃

学校生活の中で一番楽しいのは給食の時間です。特に揚げパンが出る日は一日中頑張れます。友達と献立表を見て「揚げパン」と書いてあるのを見つけたときは、疲れが無くなった気がします。給食の時間になると、教室の雰囲気も明るくなります。おいしい給食を食べながら友達と会話を交わす瞬間が、私は幸せだと感じます。そんな私の幸せが、税金によって支えられていることを知りました。給食の材料を買うお金、調理をするための冷蔵庫や様々な器具のような設備、そして給食をつくってくれる調理員さん達の給料。自分が思っているより身の周りの生活には、多くの税金が関わっていると知って少し驚きました。

給食について少し掘り下げてみると大きな役割があることがわかります。それは、生徒が平等に栄養のバランスを考えた食事を食べられることです。給食がなかったら、それぞれの家庭で弁当を用意する必要があるし、食の内容に差が出てしまうかもしれません。給食があることで、勉強に集中でき、みんなが同じようにおなかを満たすことができます。みんなが同じようにおなかを

このように揚げパンをひとつとっても、税と学校生活

は深くつながっています。ということは、社会の力でできているということです。そう考えると、一口かじるたびに「ありがとう」という感謝の気持ちがいってきます。これまでは「うん！おいしい！」とだけ思ってた食べていたけれど、その裏では数えきれないほどの支えがあったことを知ってから、味わい方がちよつと変わった気がします。税金って聞いたときは、子どもにとっては無縁で難しい話のようにしか思っていました。でも、揚げパンを通して税は身近に存在しているものなんだと気づきました。みんなが少しずつお金を出し合っておいしい給食が食べられる。税金ってみんなが不自由なく過ごすためにあるんだと思いました。

私はこれからの給食をより楽しみながら食べたいし、揚げパンが出るよ！というたわいもない会話で友達と盛り上がりたいです。そして私が大人になったら、税金をちゃんと納めて平等に過ごせるようにしたいです。そのときには、あの時の「揚げパンのおいしさ」を思い出しながら、給食を食べる未来の子どもたちが同じようにおいしいと思えるように支えていきたいです。

